

補助事業番号 19-1-004
補助事業名 平成 19 年度 自転車競技の振興 補助事業
補助事業者名 財団法人 ツール・ド・北海道協会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

我が国における自転車競技の発展に資するため、その普及推進を図りもって体育の振興に寄与する。

(2) 実施内容

大会の概要

ア. 開会式及び閉会式

a. 開会式

平成 19 年 9 月 12 日(水)小樽市・小樽グランドホテル

b. 閉会式

平成 19 年 9 月 17 日(月・祝)札幌市・ホテルライフオー・札幌

イ. 競技種目と月日・場所

第 1 ステージ 105km(小樽市～余市町～古平町～神恵内村～泊村～共和町～岩内町)

a. 平成 19 年 9 月 13 日(木)小樽市総合博物館前からスタートし、西へ積丹半島の中央部を横切るように駆け上がり、トーマル峠の KOM を越え、日本海へと下ってゴールの岩内町運動公園を目指す。

b. 午前 9 時 15 分 (財)ツール・ド・北海道協会会長 綿貫 民輔氏の号砲で 99 名の選手が一斉に出走した。

c. 通過市町村は、小樽市、余市町、古平町、神恵内村、泊村、共和町、岩内町の 1 市 4 町 2 村である。

d. 第 1 ステージの完走者は 88 名で、その成績結果は次のとおりである。

(i) 個人区間 1 位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)
2 時間 35 分 36 秒

(ii) 個人総合時間 1 位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)
2 時間 35 分 30 秒

(iii) 個人総合ポイント賞 1 位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ) 25 ポイント

(iv) 個人総合山岳賞 1 位 土井 雪広(スキル・シマノ) 10 ポイント

(v) 団体区間順位 1 位 NIPPO・梅丹・アサダ 7 時間 46 分 51 秒

(vi) 団体総合時間 1 位 NIPPO・梅丹・アサダ 7 時間 46 分 51 秒

e. 12 時 25 分から岩内町岩内運動公園特設会場において表彰式が行われ、岩内町長 上岡 雄司氏から入賞者にジャージが授与された。

第2ステージ 個人タイムトライアル 1.3km

- a. 平成19年9月13日(木)岩内運動公園特設コースにおいて15時から20チーム88名による個人タイムトライアル競技を行った。
- b. 岩内町長 上岡 雄司氏の号砲により15時から1分間隔で、あらかじめ指定された順序でスタートした。
- c. 個人タイムトライアルの成績結果は次のとおりである。

(i)個人区間	1位 西谷 泰治(愛三工業)	01分43秒02
(ii)個人総合ポイント賞	1位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)	30ポイント
(iii)団体区間	1位 NIPPO・梅丹・アサダ	05分15秒

第3ステージ 174km(共和町～蘭越町～寿都町～黒松内町～島牧村～せたな町～今金町)

- a. 9月14日(金)共和町役場前をスタートし、今金町総合体育館前に至るコースで行なわれた。
- b. 午前9時 共和町長 山本 栄二氏の号砲で80名の選手が一斉に出走した。
- c. 通過市町村は、共和町、蘭越町、寿都町、黒松内町、島牧村、せたな町、今金町の6町1村である。
- d. 第3ステージの完走者は80名で、その結果は次のとおりである。

(i)個人区間	1位 ドッカー ミッチェル(オーストラリア)	4時間21分09秒
(ii)個人総合時間	1位 ドッカー ミッチェル(オーストラリア)	6時間58分15秒
(iii)個人総合ポイント賞	1位 ドッカー ミッチェル(オーストラリア)	51ポイント
(iv)個人総合山岳賞	1位 土井 雪広(スキル・シマノ)	20ポイント
(v)団体区間順位	1位 オーストラリア	13時間03分27秒
(vi)団体総合時間	1位 オーストラリア	20時間55分56秒
- e. 13時45分から秋晴れの今金町総合体育館前特設会場において、表彰式を行い、今金町長 外崎 秀人氏から入賞者にチャンピオンジャージが授与された。

第4ステージ 164km(長万部町～黒松内町～豊浦町～蘭越町～ニセコ町～真狩村～留寿都村～洞爺湖町～壮瞥町～伊達市)

- a. 9月15日(土)長万部町役場前をスタートし、伊達市歴史の杜がゴールとなる特設会場までの164kmのコースで行われた。
- b. 午前9時 長万部町長 白井 捷一氏の号砲で88名がスタートした。
- c. 通過市町村は長万部町、黒松内町、豊浦町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市1市7町2村である。
- d. 第4ステージの完走者は77名で、その結果は次のとおりである。

(i)個人区間	1位 新城 幸也(NIPPO・梅丹・アサダ)	4時間15分21秒
---------	------------------------	-----------

- (ii)個人総合時間 1位 新城 幸也(NIPPO・梅丹・アサダ)
11 時間 13 分 37 秒
- (iii)個人総合ポイント賞 1位 宮澤 崇史(NIPPO・梅丹・アサダ)
64 ポイント
- (iv)個人総合山岳賞 1位 土井 雪広(スキル・シマノ) 27 ポイント
- (v)団体区間順位 1位 NIPPO・梅丹・アサダ 12 時間 46 分 59 秒
- (vi)団体総合時間 1位 チーム・ミヤタ 33 時間 43 分 39 秒
- e. 13 時 45 分伊達市歴史の杜特設会場において表彰式を行い、伊達市副市長 大坪 鐵雄氏から入賞者にチャンピオンジャージが授与された。

第 5 ステージ 172km(室蘭市～登別市～壮瞥町～伊達市(大滝区)～苫小牧市～千歳市
恵庭市～札幌市(南区))

- a. 9 月 16 日(日)室蘭市入江運動公園をスタートし、この大会の最高地点、オロフレ峠と 3 つの峠を越えて札幌市真駒内屋外競技場にゴールする 172km の厳しい山岳コースであり、最後の勝負どころでもある。
- b. 午前 9 時 室蘭市長 新宮 正志氏の号砲により、77 名の選手がタウン to タウンのステージ最後なので勢いよく一斉に札幌市に向かってスタートした。
- c. 通過市町村は室蘭市、登別市、壮瞥町、伊達市(大滝区)、苫小牧市、千歳市、恵庭市、札幌市(南区)7 市 1 町である。
- d. 第 5 ステージの完走者 70 名結果は次のとおりである。
- (i)個人区間 1位 ラプトーン ダレン(オーストラリア)
4 時間 34 分 31 秒
- (ii)個人総合時間 1位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)
15 時間 48 分 30 秒
- (iii)個人総合ポイント賞 1位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ) 73 ポイント
- (iv)個人総合山岳賞 1位 土井 雪広(スキル・シマノ) 33 ポイント
- (v)団体区間順位 1位 オーストラリア 13 時間 44 分 51 秒
- (vi)団体総合時間 1位 オーストラリア 47 時間 30 分 08 秒
- e. 13 時 50 分札幌市真駒内屋外競技場特設会場において表彰式を行い、大会役員 山本副総裁より入賞者にチャンピオンジャージが授与された。

第 6 ステージ(クリテリウム 61km)札幌市モエレ沼公園

- a. 9 月 17 日(月・祝)札幌市モエレ沼公園特設コースを周る(1 周 2.75km×22 周)コースで競技を行った。
- b. 9 時 45 分 大会副総裁 山本 隆幸氏の号砲で 70 名がスタートした。
- c. 第 6 ステージの完走者は 70 名で、その結果は次のとおりである。
- (i)個人区間 1位 メディ ソウラビ(イラン)
1 時間 22 分 51 秒
- (ii)個人総合時間 1位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)
17 時間 11 分 25 秒

- (iii)個人総合ポイント賞 1位 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ) 80 ポイント
- (iv)個人総合山岳賞 1位 土井 雪広(スキル・シマノ) 33 ポイント
- (v)団体区間順位 1位 愛三工業 4 時間 08 分 45 秒
- (vi)団体総合時間 1位 オーストラリア 51 時間 38 分 56 秒
- d. 11 時 20 分 札幌市モエレ沼公園特設会場において表彰式を行い、大会役員
山本副総裁から区間賞が授与された。

'07 ツール・ド・北海道国際大会最終成績

(i)団体総合時間順位

優勝 オーストラリア	51 時間 38 分 56 秒
2 位 NIPPO・梅丹・アサダ	51 時間 48 分 00 秒
3 位 ブリヂストン・アンカー	51 時間 55 分 30 秒

(ii)個人総合時間順位

優勝 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)	17 時間 11 分 25 秒
2 位 ラプトーン ダレン(オーストラリア)	17 時間 11 分 34 秒
3 位 新城 幸也(NIPPO・梅丹・アサダ)	17 時間 11 分 43 秒

(iii)個人総合山岳賞

優勝 土井 雪広(スキル・シマノ)	33 ポイント
2 位 増田 成幸(ミヤタ)	27 ポイント
3 位 ショウ スチュアート(オーストラリア)	15 ポイント

(iv)個人総合ポイント賞

優勝 ヴェルネル ヘンリ(ドイツ)	80 ポイント
2 位 宮澤 崇史(NIPPO・梅丹・アサダ)	67 ポイント
3 位 メディ ソウラビ(イラン)	65 ポイント

a.表彰式は閉会式に行われた。

成果

本大会の 21 回大会における競技は、まずまずの天候に恵まれステージレース最終は札幌市真駒内屋外競技場ゴールとなった。その他のステージは少々の雨風にあたたかったが順調な大会となった。選手達はそれぞれの力を出し切り、道南・道央の大自然の中、伸び伸びとステージレースができた。

本格的な国際大会として 11 回目を迎え一歩一歩着実な歩みを続けており、これまでのツール・ド・北海道の開催実績とその成果が、大会運営等についても十二分に発揮された。

今年は海外 5 チームを招待し、国際色あふれる競技に道民の関心も年々強くなっているようで、各ステージともかなり多くの観客があり(90,180 人)、スピード感あふれる自転車競技に熱心な声援が送られた。

また、大会後、地元民放テレビ局及び全国 CS 放送で放映され、さらに当協会のホームページも大会期間中には高いアクセス数で推移し、広く成果を十分に周知することができた。

2. 予想される事業実施効果

ツール・ド・北海道の開催により、北海道における観光資源及び産業の開発・文化の振興・生活の向上等に貢献すると共に、自転車による健康と体力の増進に一層の関心を深め、また、わが国におけるサイクルスポーツの普及・振興及び自転車利用の普及・啓発になお一層の貢献が期待できる。

3. 本事業により作成した印刷物

ポスター	2,600 枚
プログラム	6,000 部
選手名簿	10,000 部
交通規制チラシ	63,000 枚(4 種類)
事業報告書	600 部

4. 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 財団法人 ツール・ド・北海道協会(ツール・ド・ホッカイドウキョウカイ)
住 所： 060-0004
札幌市中央区北 4 条西 6 丁目 1-3 北四条ビル 4 階
代表者名： 理事長 眞田 眞(サナダ マコト)
担当者名： 事務局長 鈴木 秀之(スズキ ヒデユキ)
担当部署： 事務局
電話番号： 011-222-5922
F A X： 011-232-4604
E - mail： suzuki@tour-de-hokkaido.or.jp
U R L： <http://www.tour-de-hokkaido.or.jp>